

令和 7 年 6 月 3 日

見附市議会議員 様

見附市議会議員 徳永 英明

一 般 質 問 通 告 書

下記のとおり質問したいので、会議規則第 6 1 条第 2 項の規定により通告します。

質問事項 (主題を記載してください。議場配布の一覧表に印刷)

【 1 】 見附市の抱える課題について

答弁を求める者 市 長

1 稲田市長は「暮らし満足 NO.1 のまち」を目標に掲げ、7つの柱を軸として、市政運営を進めておられます。昨年 9 月に実施した「まちづくり市民アンケート」では「住み良いまち」との評価が、91.8%と過去最高を記録し「魅力あるまちになった」との回答も 73.6%と前回調査を上回っています。

しかしながら一方では、ほぼ全ての自治体が頭を抱える少子高齢化・人口減少に歯止めをかける事が出来ません。令和 7 年度が第 5 次見附市総合計画の最終年度となりますが、総合計画の中の市独自推計による人口見通しでは、令和 7 年 37,426 人で 15 年後の令和 22 年では 32,086 人の推計値が記載されています。しかしながら年齢区分別推計では高齢化率は上がり続け、令和 6 年度の約 34%から 38.1%との予測となり、市内人口の約 10 人に 4 人が 65 歳以上の高齢者となります。出生数では令和 7 年は 245 人の数値目標ですが、令和 6 年度の確定数値では 190 人と 200 人を下回ってしまいました。社会を支える生産人口は少子高齢化・人口減少に伴い減少する一方です。私の身近な所で例えるならば、昨年度今町中学校を卒業された方は 79 人でしたが、今年度今町小学校に入学された方は 40 人となり、約 10 年間で 50%に近い減少率となっています。

市内の人口減少に伴い、生産年齢人口も減少している事が顕著に伺う事が出来ます。今後策定される第 6 次総合計画は今後 10 年間の市政運営を進める総合的・計画的な基本計画となります。見附市の人口推計での年代別把握により、施策が大きく変わる事と思われます。少子高齢化・人口減少を一例として当市が抱える課題は数多く有りますが、3 月定例会の施政方針において基本的な考えを述べておられる中から見附市の課題について、以下数点お伺いします。

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイウ



(1) 「まちと産業を元気にする」について

ア 市民アンケートによる生活インフラに関する満足度が低いものとして、毎回「働き場所の豊富さ」や「観光・レクリエーション施設の充実」の要望が挙げられています。働き場所の創出について市長のお考えを伺います。

イ 総合計画の基本構想に都市の将来像として「スマートウェルネスみつけ」の実現を目指すとあります。農村部に住まわれている高齢者は核家族化により

独居老人世帯や夫婦高齢者世帯が増加していますが、身体が自由が利くうちに利便性の良い市街地に移り住みたいとお考えの人は多く、一方で所有の不動産を引き受けてもらえない実情もあり、市内では空き家や空き地が増加しています。市長はどの様に受け止めておられるか伺います。

(2) 「子育て・教育」について

ア こどもや保護者からのアンケート調査結果を踏まえ、「ふるさと納税寄附金の一部を公園等における大型遊具整備に向けた検討に着手します」とあります。11 月から 3 月中旬頃までは冬季間で屋外での遊具使用が制限されますが、従来の遊具に工夫を凝らした物なのか、市長はどのような構想をお持ちなのか伺います。

(3) 「健幸」について

ア 見附市立病院は市内で唯一緊急患者を受け入れてもらえる公的病院で市民の心のよりどころでも有ります、令和 7 年度に新たに 1 名を加え合計 2 名の医学生が卒業後 5 年間勤務していただけますが、今後継続していける計画なのかを伺います。

(4) 「安心・安全」について

ア 持続可能な雪害対策について、地域の除雪作業を請け負ってもらう建設業者は、年々減少する市の発注する公共事業では人材不足の関連もあり存続が危ぶまれます。公共事業のみならず民間工事も物価高騰の影響から低迷状態です。大雪になり除雪対応がうまく回らなければ通勤通学ばかりでなくごみの収集運搬など日常生活に大きな影響を与える事になりますが、この点について市長のお考えを伺います。

イ 社会インフラの老朽化に伴い各地で大きな問題を引き起こしています。上下水道や道路橋等の今後の計画的な更新整備について市長のお考えを伺います。

(5) 「市民の皆様に寄り添う」について

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイウ

ア 私達の地域コミュニティの今町田園地区ふれあい協議会で活動を共にしてきた4つの老人会の内3つが3月末で解散しました。解散の主な要因としては、新規の入会者がいないことや役員のなり手不足が挙げられる様です。一人暮らしや老夫婦二人での生活の中で行き場が一つ無くなったと、がっかりされる方も多く見受けられました。このような実情を市長はどの様に受け止められるか、お考えを伺います。

(6)「あらゆる力を結集する」について

ア 私の所属するコミュニティほのぼの田園地区ふれあい協議会は平成21年11月の設立から発足16年目を迎えています。近年の会合では世代間交流が図れなくなってきたと感じている人が多く、会合では委任状の提出者が増えてきた事や、会合には参加するが交流会には欠席しますと、自分の時間を大切にする傾向がコロナ禍以降一気に加速したように感じますが、このような傾向を市長はどの様にお考えか伺います。

(7)「行財政検証」について

ア 大型事業については、見附駅周辺整備事業、耳取遺跡事業、下水道施設の維持管理更新を行う「ウォーターPPP」の導入可能性調査、そして今後数年後の指定管理者が運営する施設のリニューアル工事、見附みらいづくり最高戦略監（CSO）を中心に進める公共施設の適正化、学校適正配置計画、また物価高騰による生活困窮対策など市民の関心度の高い課題が多々あります。中でも平成29年9月より販売を開始し、販売不振に苦慮しているウェルネスタウンの販売促進事業、今後の販売予測についてお伺いします。

イ 歳入・歳出の均衡を図りながらの市民福祉関連事業予算の削減は困難です。人口減少に伴い、自主財源の伸びも期待できません。「新しい制度による国県支出金や有利な地方債を活用し、更なる歳入確保に努めていきます」と有りますが、その他の手段として、市民アンケートにおいて「働き場所の豊富さ」が求められている点から市内への企業誘致が有効であると思われますが、市長は今後どの様に企業誘致について取り組んでいかれるのか、お考えを伺います。

(8)「稲田市長2期目の出馬」について

ア 最後の質問です。体調を崩され早期に退任された前久住市長の後任として、稲田市長は4年間の市政を担ってこられました。将来なりたかった職業は学校の先生だったと聞き、真面目で実直な人間性であるがために、首長

として自らのカラーが出せていないと、歯がゆさを感じる市民もおられますが、前任者から引き継いだ案件にも的確に対応してこられました。

基本的に毎月実施されている「ふれあい懇談会」では市民と膝を交えて、正面から話し合いの場を設営し、市民からの意見を聞き取るボトムアップに努めて来られました。市長選の日程は 11 月 30 日に決まっていますが、今後まだまだ数多くの課題が残されています。その課題解決に向けて見附市民の為に再度、市長選挙に出馬される決意を議会の場で表明して頂きたいと思えます。

稲田市長ご自身が大切なキーワードは「未来」だとおっしゃっておられます。その「未来」への思いも合わせて、稲田市長のお考えをお聞きいたします。